

科目 No.71

分野	専門分野	科目	老年看護学：老年看護の概論																							
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1単位 30時間（15回）	配当時期	2年前期																					
講師名	木下由理子	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務																							
	安田芽吹		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務																							
<p>【科目のねらい】</p> <p>医療の発達による高齢化は今後も加速し、「人生 100 年時代」に入るといわれています。高齢化の進んだわが国では、病院でも地域でも、看護の対象の多くは高齢者です。老年看護の目標は、高齢者のもつ健康あるいは生活上のリスクの最小化と可能性の最大化をはかる看護を通して、その人の望む自律的な生き方の実現と安らかな死に貢献することであり、高齢者のニーズを中心に、家族、日々を営む生活環境、医療や介護保険制度のヘルスケアシステムに注目し、必要な看護はなにかアセスメントしていくことが重要となります。ここでは、老年看護を実践する上で必要な知識として、高齢者の理解、高齢者をとりまく社会、老年看護の基本について学んでいきます。</p>																										
<p>【目的】老年看護を実践する上で、必要な知識（高齢者の理解、高齢者をとりまく社会、老年看護の基本）を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期をライフサイクルの流れの中で説明することができる。 2. 高齢者疑似体験を通して、高齢者の身体機能の変化と心理状態について述べることができる。 3. 高齢者疑似体験から、加齢現象が高齢者の日常生活にどのように影響しているかを考察することができる。 4. 日本の超高齢社会の統計的輪郭を概観し、これまでの保健医療福祉の変遷と将来予測について説明することができる。 5. 高齢者の権利擁護について、看護師の役割を述べるができる。 6. 老年看護の基本的な考え方について説明することができる。 7. 高齢者の理解や老年看護の実践にかかわる基本的な理論について説明することができる。 8. 事例演習を通して、ヘルスアセスメント（身体的・精神的・社会的な視点から総合的に査定すること）ができる。 9. 加齢変化が事故発生に与える影響と、その安全対策について考察することができる。 																										
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>																										
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老いるということ、老いを生きるということ</td> <td>講義 演習 ポストテスト</td> <td rowspan="6">木下由理子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="2">高齢者疑似体験：校内を探索し、高齢者が感じる不自由さを体験する 身体的な機能低下や機能低下に伴う高齢者の心理状態について</td> <td rowspan="2">演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>高齢者疑似体験から、加齢現象が高齢者の日常生活にどのように影響しているかを考える 演習の成果を発表し共有する</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>超高齢社会と社会保障 超高齢社会の統計的輪郭（現況、高齢者と家族、高齢者の健康、高齢者の生活と暮らし） 高齢社会における保健医療福祉の動向 演習：「2025年問題」で議論されている課題について</td> <td>講義 演習 ポストテスト</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>超高齢社会と社会保障 高齢者の権利擁護 演習：高齢者虐待について</td> <td>講義 演習 ポストテスト</td> </tr> </tbody> </table>						回	学習内容	方法	備考	1	老いるということ、老いを生きるということ	講義 演習 ポストテスト	木下由理子	2	高齢者疑似体験：校内を探索し、高齢者が感じる不自由さを体験する 身体的な機能低下や機能低下に伴う高齢者の心理状態について	演習	3	4	高齢者疑似体験から、加齢現象が高齢者の日常生活にどのように影響しているかを考える 演習の成果を発表し共有する	演習	5	超高齢社会と社会保障 超高齢社会の統計的輪郭（現況、高齢者と家族、高齢者の健康、高齢者の生活と暮らし） 高齢社会における保健医療福祉の動向 演習：「2025年問題」で議論されている課題について	講義 演習 ポストテスト	6	超高齢社会と社会保障 高齢者の権利擁護 演習：高齢者虐待について	講義 演習 ポストテスト
回	学習内容	方法	備考																							
1	老いるということ、老いを生きるということ	講義 演習 ポストテスト	木下由理子																							
2	高齢者疑似体験：校内を探索し、高齢者が感じる不自由さを体験する 身体的な機能低下や機能低下に伴う高齢者の心理状態について	演習																								
3																										
4	高齢者疑似体験から、加齢現象が高齢者の日常生活にどのように影響しているかを考える 演習の成果を発表し共有する	演習																								
5	超高齢社会と社会保障 超高齢社会の統計的輪郭（現況、高齢者と家族、高齢者の健康、高齢者の生活と暮らし） 高齢社会における保健医療福祉の動向 演習：「2025年問題」で議論されている課題について	講義 演習 ポストテスト																								
6	超高齢社会と社会保障 高齢者の権利擁護 演習：高齢者虐待について	講義 演習 ポストテスト																								

7	老年看護のなりたち 老年看護の基本的な考え方、老年看護における理論・概念の活用 発達理論、サクセスフルエイジング、自尊感情、ストレングスモデル、自己効力感	講義 ポストテスト	
8	高齢者のヘルスアセスメント 事例演習	講義 演習	安田芽吹
9			
10			
11			
12	高齢者のリスクマネジメント	講義 演習	安田芽吹
13	高齢者と医療安全	ポストテスト	
14	高齢者のリスクマネジメント	講義 演習	
15	高齢者と災害	ポストテスト	
	試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようなポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>講義開始前に必ず、「目で見える老年看護学 Vol.1～3」の動画視聴をしてから講義に参加しましょう。</p> <p>講義後の事後学習にも動画視聴を活用しましょう。</p> <p>2 回目的高齢者疑似体験までに、加齢に伴う身体的・心理的・社会的な変化について、事前にレポートにまとめておきましょう。課題レポートは、3 回目の授業終了後、提出となります。</p> <p>5 回目は、高齢社会における保健医療福祉の動向について、社会保障・社会福祉と連携の学習を活用しながら復習しておきましょう。「2025 年問題」で議論されている課題については調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。課題レポートは授業終了後、提出となります。</p> <p>6 回目は、新聞記事の検索システムや厚生労働省の資料を参考に、高齢者虐待に関する報道について調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。グループディスカッションしていきます。課題レポートは、授業終了後、提出となります。</p> <p>12 回目～13 回目は、新聞記事の検索システムや厚生労働省の資料を参考に、高齢者の医療事故について調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。グループディスカッションしていきます。課題レポートは、13 回目の授業終了後、提出となります。</p> <p>8 回目～11 回目の演習は、事例演習を行ないます。事前課題は、授業の際に提示します。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>北川公子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2023</p> <p>鳥羽研二他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2023</p> <p>福田素生他著 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院 2023</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 2023</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 2023</p> <p>厚生労働省：高齢者虐待防止関連調査・資料、医療安全対策 (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/boushi/index.html)</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（30 点）、筆記試験（40 点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>			

科目 No.72

分野	専門分野	科目	老年看護学：老年看護の方法 I		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年全期
講師名	木下由理子	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
<p>【科目のねらい】</p> <p>加齢による機能低下や疾病・障害のある高齢者では、日常生活動作（ADL）の能力が低下することが少なくありません。このことは、高齢者の自己実現や尊重の欲求の充足にも影響し、QOL を低下させる要因にもなります。医療体制が病院から地域へ移行してきていることから、地域全体で高齢者ケアを考え、生活機能に着目し、持てる力や強みを活かした自助力を支援する看護を実践していくことが必要となります。ここでは、老年看護の概論で学んだ知識をもとに、高齢者の生活機能を整える看護について学んでいきましょう。</p>					
<p>【目的】 高齢者の生活機能に着目し、持てる力や強みを活かした自助力を支援する看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者とのコミュニケーションとかかり方について説明することができる。 2. 演習を通して、高齢者の歩行・移動のアセスメントと看護を実施することができる。 3. 演習を通して、高齢者の睡眠と覚醒のアセスメントと看護を考察することができる。 4. 演習を通して、高齢者の食生活のアセスメントと看護を実施することができる。 5. 演習を通して、高齢者の排泄障害のアセスメントと看護を実施することができる。 6. 演習を通して、高齢者の清潔・衣生活のアセスメントと看護を実施することができる。 7. 高齢者のセクシュアリティのアセスメントと看護について説明することができる。 8. 地域における高齢者の社会参加の必要性について述べるることができる。 					
<p>【DP との関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象者のQOL向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容	方法	備考		
1	生活機能に着目する意味 コミュニケーション 高齢者の聴覚・視覚機能、精神機能 高齢者疑似体験を活かし、アセスメントと看護を考える	講義 演習 ポストテスト			
2	日常生活を支える基本的活動 ADL、IADL、環境、転倒、骨粗鬆症、骨折、廃用症候群	講義 演習 ポストテスト			
3	演習Ⅰ：左片麻痺のある高齢者の運動器の観察（MMT・関節可動域）と自動・他動運動の援助				
4	演習Ⅱ：左片麻痺のある高齢者の転倒のアセスメントと看護 安全な療養環境（転倒・転落・外傷予防）				
5	生活リズム 加齢に伴う睡眠と覚醒の変化、高齢者にみられる睡眠の障害 睡眠障害のある高齢者のアセスメントと看護を考える	講義 演習 ポストテスト			
6	食事・食生活 食生活、脱水、摂食・嚥下障害、低栄養	講義 演習 ポストテスト			
7	演習Ⅲ：脳梗塞の嚥下障害のある高齢者の食事介助				
8	嚥下訓練・義歯の取り扱いと口腔ケア				
9	排泄	講義 演習			
10	排尿障害、排便障害				

11	演習Ⅳ：排便障害（便秘）がある高齢者の排泄の援助、摘便 演習Ⅴ：排尿障害（尿失禁）がある高齢者の排泄の援助	ポストテスト	
12	清潔・衣生活、身だしなみ、おしゃれ 演習Ⅵ：皮膚障害・関節拘縮のある高齢者のシャワー浴・入浴介助	講義 演習	
13	左片麻痺のある高齢者のシャワー浴・入浴介助 演習後、気づきと学びの共有	ポストテスト	
14	セクシュアリティ 社会参加	講義 ポストテスト	
15	学習のまとめ	演習	
	試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>疾病と治療・基礎看護技術の学習を活用できるように復習しておきましょう。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>講義開始前に必ず、「目で見える老年看護学 Vol.4.5」の動画視聴をしてから講義に参加しましょう。</p> <p>講義後の事後学習にも動画視聴を活用しましょう。</p> <p>演習Ⅰ～Ⅵについては、各演習前までに、事例高齢者の生活機能を整える看護について事前に配布されるレポートにまとめておき、演習後に学びを記載したのちに、提出となります。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>北川公子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2023</p> <p>鳥羽研二他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2023</p> <p>茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2022</p> <p>任和子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2022</p> <p>藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2022</p> <p>近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2022</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 2023</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 2023</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（30点）、筆記試験（40点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p> <p>チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。</p> <p>到達レベル 演習Ⅰ：シャワー浴・入浴の介助、摘便、自動運動・他動運動の援助、安全な療養環境（転倒・転落・外傷予防）</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>			
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p> <p>チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。</p>			

科目 No.73

分野	専門分野	科目	老年看護学：老年看護の方法Ⅱ		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年後期
講師名	木下由里子	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
	安田芽吹		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
【科目のねらい】 高齢者の心身の状態は、複数の慢性疾患、認知機能の低下やフレイルといわれる状態など、複合的な問題を抱えていることが特徴です。ここでは高齢者に特有な症状や疾患・障害をもつ対象及び家族に対し、生活機能に着目し、持てる力や強みを活かした自助力を支援するためにはどのような看護を実践する必要があるか、事例演習を通して学んでいきます。また、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで継続できるよう、高齢者のニーズに合わせて多職種連携・協働していくことが重要です。保健医療福祉にかかわる専門職の養成機関の他学生と、事例を通して協同学習することで、ほかの職種の役割や専門性、自身の専門性や責任を理解する機会としていきましょう。					
【目的】複合的な疾患をもつ高齢者やその家族に対して、科学的根拠に基づき生活機能の視点から看護を考える基礎的能力を養う。 【到達目標】 1. 対象の反応、病態や治療の影響などを踏まえて健康状態を判断することができる。 2. 一般論や理論を用いて、科学的根拠を踏まえて判断することができる。 3. 対象の発達的特徴や家族の視点を踏まえて看護計画を立案することができる。 4. 対象の持てる力を活かし、安心・安全な看護を追求することができる。 5. 専門職連携教育（IPE）を通して、ほかの職種の役割や専門性、自身の専門性や責任について述べるることができる。					
【DP との関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容		方法	備考	
1	高齢者に多い健康障害と対象及び家族への看護		講義 演習 ポストテスト	安田芽吹	
2	事例演習 1：パーキンソン病				
3	臨床判断				
4	発表と学びの共有				
5	事例演習 2：大腿骨骨折術後に誤嚥性肺炎を併発した高齢者		講義 演習 ポストテスト	安田芽吹	
6	臨床判断				
7	グループ学習				
8	発表と学びの共有				
9	事例演習 3：認知症があり、糖尿病で自己管理が必要な高齢者		講義 演習 ポストテスト	木下由里子	
10	臨床判断				
11	グループ学習				
12	発表と学びの共有				
13	高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化		演習	安田芽吹 専門職連携 教育（IPE）	
14	専門職連携協働（IPW）管理栄養士・言語療法士・作業療法士・歯科医師・ 歯科衛生士・看護師養成の協同学習				

15	「摂食・嚥下チームとして活動してみよう」 事例：脳梗塞の嚥下困難にある後期高齢者		
	試験		
【準備学習内容】			
<p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>一人ひとりが調べ学習をしっかりと行ない、演習が効果的な時間となるよう努めましょう。</p> <p>事例演習 1～3 の事前課題は授業の際に提示しますが、講義までに事例疾患患者の看護については事前学習を行っておきましょう。</p> <p>事例演習 1 の事前・事後学習には、動画視聴「アセスメント事例集 Vo3」を活用しましょう。</p> <p>事例演習 3 の事前・事後学習には、動画視聴「目で見える老年看護 Vol.7」を活用しましょう。</p> <p>13 回目～15 回目は専門職連携について学びます。事前に事例を提示します。看護の視点を持ち、テーマに対して思考し、グループの見解をまとめ、レポートしたものを持参してください。課題レポートは 15 回目の授業終了後、提出となります。</p> <p>また、事前・事後学習には動画視聴「目で見える老年看護 Vol.5、6」を活用しましょう。</p>			
【使用するテキスト】			
<p>北川公子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2023</p> <p>鳥羽研二他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2023</p>			
【参考文献】			
<p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 2023</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 2023</p>			
【評価方法】			
<p>授業終了時のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（70 点）、筆記試験（0 点）筆記試験削除して下さい。</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
【受講上の注意】			
<p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>			